

パラサイト日本人論

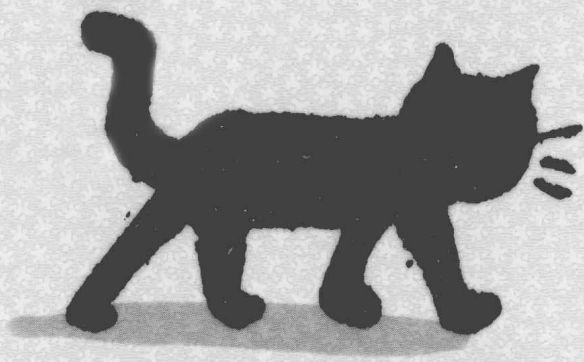
ウィルスがつくった
日本のまごころ

竹内

竹内久美子

パラサイト日本人論

ウイルスがつくった日本のこころ



文藝春秋

〈著者略歴〉1956年生まれ。79年、京都大学理学部卒業後、同大学院に進み、博士課程を経て著述業に。専攻は動物行動学。著書に『ワニはいかにして愛を語り合うか』（共著、新潮文庫）、『浮気人類進化論』（晶文社）、『男と女の進化論』（新潮文庫）、『そんなバカな!』（文春文庫）、『賭博と国家と男と女』（日本経済新聞社、文春文庫近刊）、『小さな悪魔の背中の窪み』（新潮社）がある。

パラサイト日本人論
ウイルスがつくった日本のこころ

一九九五年十月二十日 第一刷
一九九五年十二月十日 第三刷

定価はカバーに表示してあります

著者 竹内久美子

発行者 堤 堯

発行所 株式会社文藝春秋

東京都千代田区紀尾井町二一三
電話 〇三—二六五—二二一

郵便番号 一〇〇二

本文印刷所 理想社

付物印刷所 大日本印刷

製本所 加藤製本

万一、落丁乱丁の場合は送料当方負担でお取替え致します。小社営業部宛お送り下さい。

パラサイト日本人論 目次

プロローグ 尾曲リネコのはるかな旅路 9

第一章 二つのルーツを持つ日本人

日本人の祖先のたどった道 先達はニホンザル 25

頭の形と日本人 関西人はちょっと特別 37

ミトコンドリアは語る 縄文人はどこから来たか 49

第二章 男と女と。パラサイト

外見にこだわるのはなぜ？

ツバメに見る恋愛の現実

65

暑い国から来た “男尊女卑”

そして人はカッコいい

79

寒い国から来た “平等主義”

私の見た京都人

93

第三章 日本人の死生観

私は象ゴリラ 類人猿の死生観

105

浄土真宗が最大勢力になったのは 日本人の死生観

118

あの世を想う気持ちを強めるものは またも負けたか八連隊

136

第四章 ウイルスがつくった日本のころ

友^友 となった白血病 ウイルスから日本人を探る

153

ATLは残った なぜ縄文人だけが持っていたのか

169

ウイルスがつくった日本のころ ATLと相互協力、あるいはおせっかい

186

謝辞

219

裝幀
南伸坊

パ^ラサイト日本人論

ウイルスがつくった日本のこころ

プロローグ 尾曲リネコのはるかな旅路

あなたの身近なネコたちを、ぜひじっくりと観察していただきたい。尾は曲がっているだろうか。

プロローグ
尾が曲がるとは、尻尾がまるで途中で切れてしまっているかのように見えること、先が丸く固まってこぶ状になっていること、あるいは本当に曲がっていることを言う。要するに長くても真つぐな尾以外は、曲がった尾とみなすのである（切れているように見える尾も、骨がいびつに曲がっているだけで切れてはいない）。こういう曲がった尾は英語で *kinky tail* と呼ばれている。尾曲リネコがいるのは本来アジアの一部の地域だけである。アメリカで作られたジャパニーズ・ボブテイルという品種は、この尾曲リネコを原種としているのである。

さて、もしあなたが福井や滋賀、京都、奈良、長野などの府県にお住まいなら、尾曲りネコを見かけることはそうあることではないに違いない。私は京都市の東のはずれの北白川という所に住んでいるが、近辺でここ数カ月のうちに見かけたネコ三九匹のうち、尾曲りはたった四匹であった。私の師匠である日高敏隆氏は大変なネコ好きで、洛北のお宅には常に五〜六匹、多いときには十数匹のネコ（雑種）が飼われている。野良ネコさえ我が物顔で出入りするほどだ。ところが先生によると二〇年前に京都へ来てからこの方、尾曲りネコを飼ったことも、出入りを許したことも（それは別に避けたわけでもないのに）一度もないそうである。

一方、あなたが長崎、鹿児島、宮崎、熊本、茨城などの県にお住まいなら、尾曲りネコを見つけるのはいとむたやすいことだろう。ネコと言えば尾が曲がっている方が普通なのである。

実は全国のネコの尾曲り状況をつぶさに調べた人がいる。京大霊長類研究所の野澤謙氏（現、中京大学）らで、その観察例たるや膨大な数に上っている。野澤氏はこの十数年間というものの、休日には日本各地に出かけ、駅前でレンタサイクルを借りるなどしてネコの観察を続けた。路上や塀の上にネコを見つけると、素早く毛色のタイプと尾曲りかどうかをチェック。早朝の飲み屋街が特に収獲が上がるそうである（ということは観察例の、おそらく半分以上が野良ネコということになるだろう）。そうして集められたデータは実に一万二〇〇〇匹を上回る。都道府県別尾曲りランキングは表に示す通りである（『在来家畜研究会報告』一三号、五一〜一一五ペー

尾曲りネコ ランキング

	尾曲り率		尾曲り率
1 長 崎	79.0%	26 石 川	40.8%
2 鹿児島	73.9%	27 鳥 取	39.7%
3 宮 崎	62.7%	28 新 潟	37.8%
4 熊 本	62.5%	29 岡 山	37.3%
5 茨 城	61.4%	30 宮 城	37.1%
6 佐 賀 } 福 岡 }	60.2%	31 秋 田	35.9%
8 千 葉	58.2%	32 香 川	35.1%
9 山 口	54.7%	33 島 根 } 三 重 }	34.5%
10 埼 玉	54.2%	35 岩 手	33.3%
11 群 馬	53.3%	36 岐 阜	29.1%
12 静 岡	53.2%	37 山 形	29.0%
13 東 京	52.4%	38 山 梨	28.9%
14 栃 木	51.0%	39 兵 庫	27.8%
15 愛 媛	50.4%	40 福 島	27.6%
16 高 知	50.0%	41 富 山	24.0%
17 大 分	49.4%	42 沖 縄	23.3%
18 大 阪	49.1%	43 長 野	21.7%
19 広 島	49.0%	44 奈 良	20.9%
20 和歌山	47.8%	45 京 都	15.6%
21 北海道	43.1%	46 滋 賀	11.8%
22 徳 島	42.5%	47 福 井	6.5%
23 愛 知	41.3%		
24 青 森	41.1%		
25 神奈川	41.0%		

〔サンプル数は
57(香川)～1280(愛知)〕

〔『在来家畜研究会報告』13号 51～115 ページ (1990)
「日本猫の毛色などの形質に見られる遺伝的多型」(野澤
謙、並河鷹夫、川本芳)より作成。〕

ジ、一九九〇年、のデータをもとに作成）。

ランキングを見て気づくのは、尾曲りはまず九州に多いということである。長崎を筆頭に驚くべき高率だ。九州のネコの尾は、少なくとも三匹に二匹は曲がっている勘定である。私は九州をまだ時間をかけて旅したことがないが、今度行く機会があったらじっくり観察してきてみたいものである。

九州に次いで多いのが、地理的には九州とかけ離れた茨城、千葉、埼玉、群馬、東京など関東勢だ。半分強が尾曲り。次いでベスト二〇位入りを果たしているのは山口、静岡、愛媛、高知、大阪、広島、和歌山で、地域的傾向があるような、ないようなといったところである。

それに対し、ランキングの下の方を見て驚くのは、最下位福井の飛び抜けて低い値である。

六・五パーセントというのは、だいたい一五匹に一匹しか尾曲りがいない勘定である。そして滋賀、京都、奈良、と福井ほどではないが、やはり随分と低い地域が続く。私は京都市北白川界隈における独自の観察で、三九匹中四匹（二〇・三パーセント）という結果を出したが、これは野澤氏のデータとそう違わない。京都府は一五・六パーセントだが、京都市内に限った観察によると、一二・四パーセントと、さらに低い結果が出ているのである。福井から内陸へ向かい、滋賀、京都、そして奈良へと続く、尾曲り不毛地帯とも呼ぶべき地域が存在するようである。しかし、もし京都から大阪へ抜けるとすると、そこはもう十分に尾曲り地域になって

しまうのである（ちなみに、京のネコの尻尾が真つすぐで大阪のネコの尻尾が曲がりがちであることに昔の人はとうに気づいており、江戸時代の書物にも記されている）。

ランキングをもう少し全体的に見てみよう。そうして一つ気がつくことは、尾曲りネコはどうも内陸部に少なく——内陸に少ないことは前出の奈良、長野の他に山梨、岐阜などの県も下位にランクされることからもうかがえるだろう——海岸部に多い、しかも黒潮（日本海流）や対馬海流など、暖流のよく到達する場所に特に多いということである。

軒並み高率の九州各県は、いずれも暖流との関わりが著しい。鹿児島、宮崎などはもっぱら黒潮に、長崎、福岡などは主に対馬海流に洗われる。そして九州で最下位の大分（全国では一七位）は瀬戸内海に面し、暖流の影響を比較的受けにくい位置にあるのである。

四国に目を向けるなら、黒潮に洗われる愛媛（二五位）、高知（一六位）、徳島（二二位）で尾曲り率が高いのに対し、完全に瀬戸内側である香川でかなり落ちる（三二位）というわけだ。茨城（五位）、千葉（八位）、静岡（二二位）、和歌山（二〇位）にも黒潮は達している。それに半島は漂流物を捕えやすい構造をしているから、千葉、静岡、和歌山などにはひょっとして半島効果のようなものが加わっているかもしれない（ただ埼玉、群馬などの内陸でなぜ高率なのかは全くわからない）。

では、福井の最下位はどう説明されるだろう。福井は海に面し、対馬海流も到達しているは

ずなのに、なぜだろう。もしかして「半島効果」の逆の「湾効果」とでも言うべきものなのか。福井県の西半分を占めるのは若狭湾である。それ自体、巨大な生け簀すのような大きな湾曲だ。半島なら漂流物を捕えるだろうが、湾はなかなかそうはいかない。海流ははるか沖合いを通り過ぎていってしまうだろう。するとなるほど納得が行く。能登半島を抱える石川県でいったん尾曲り率が上がるが（四〇・八パーセント）、福井県と同様に大きな湾を抱える富山県になるとまた下がってしまう（二四・〇パーセント）のである。福井は海に面しているけれど、面していないのと同じような状況にある、だから最下位に位置する……。ともあれ、こうしてみてくると一つの仮説を立てることができるかもしれない。

尾曲りネコは（正確には尾曲りネコの尾曲り遺伝子なるものは）、かつて暖流に乗り、南方から渡来してきたのではないのか――。

もちろん椰子の実ではあるまいし、ネコがプカプカと浮いてやって来たわけではない。尾曲りネコは貿易船に積み荷を食い荒らすネズミ対策として乗せられ、あるいは難民の船に家族の一員として乗り込み、はるかな航海をともして来たのではないだろうか。それがいつ頃のことなのかはよくわからない。ただ、どの地域からであるのかは明確にわかってきているのである。

野澤氏らは尾曲りネコなど日本のネコのルーツを探るべく、何回もの海外調査を行なってい